友愛
発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽1-7-1
電話 大塚（941）2801
編集兼発行人佐々木恵美子
定価 1部 10円

MAYCアドヴァイザーが来日

本会の友好団体であるMAYC（会長＝トンク・アブドーラ殿下）のアドヴァイザーであるドクターガネシャン氏が八月二十二日JALの七一四便で九時二十五分に羽田空港に到着した。

成功した夏期事業

組織・会員の全面的協力で

暑い夏の終りと同時に、本会の夏期事業も一段落した。この夏期事業には、全国組織、特に事業実施開催地にあたった組織は、たいへんであったようである。

ここに、夏期事業として実施されたものの、継続中のものを載せ、成果のあがった事業をもう一度ふり返って、下半期事業への取り組みの一つの手掛りとし、実りある下半期事業を全国各組織で積極的に展開してもらいたいものである。

一、第二回北海道ブロック研修会

期日 七月一日、二日
会場 北海タイムス・ユースホステル
参加者 内容 北海道支部連合会ならびに所属する支部地区会員が参加した。中には新しく会員になったものもあり、既に四・五年になるものもあったが、対象は、あくまでも支部地区の中堅指導者の養成にあり、ここで養成された指導者を中央指導者講習会で更に質的に高めてゆくようになっている。内容は"生活に結びついた友愛思想について"と"社会教育としての青少年活動について"を研修し、地域に密着した友愛活動の進め方を多方面から検討し、北海道地域の組織固めの基礎になり、大きな成果を挙げた。

二、第十四回中央指導者講習会（軽井沢講習会）

期日 七月七日・八日・九日
会場 軽井沢友愛山荘
参加者・内容 常任幹事、幹事、全国各組織役員、組織委員並びに執行部が参加した。内容は、友愛運動について基本的問題をあらゆる角度から検討した。友愛十四年の歩み、組織の現状、友愛外交のあり方、社会教育の必要性等について真剣に取り組み、現状分析の上に立って、今後の本会活動のあるべき姿の具体策を研修した。今後は意識の高い会員を増やすとともに、組織拡大を中心に運動を進める方向が確認された。

三、友愛移動文化映画沖縄班出発

期日 八月十四日より
派遣地 沖縄、南九州地域
内容 劇映画、青少年活動、科学技術、海外協力隊等の海外への紹介の映画により、視聴覚教育を通じて青少年活動にたいし青少年を啓蒙するとともに、映画会終了後、開催地青少年と懇談会を開き、青少年活動はどのようにすればよいか、その地域の問題点はどこにあるか等膝をつき合わせて青少年問題を話し合い、真剣な意見の交換があった。

四、国際道義高揚友愛キャラバン隊

期日 七月十六日より
開催地 福島県（二班） 静岡県（一班）
参加者 内容は、本会々員および友好団体会員が参加した。オリンピックを機会に国民の間に「国土美化運動」に対する意識が高まり、本会は、青少年活動と結びつけて"国際道義"の高揚と実践をおこなうものであり、各開催県においては、社会教育課、新生活運動協議会の協力を得ると同時に、友好青少年団体へも呼びかけ、明るい町づくりを推進し今後も継続的に推進されるよう市民に働きかけた。

五、第六回友愛全国学生会議

期日 七月二十九日、三十日、三十一日
会場 東京都市ケ谷会館
参加者・内容 参加者は、友愛全国学生部代表ならびに未組織学生部会員が集まり、本会における学生部活動の基本路線を討議した。全国学生部が結成され三年目を迎えたので、今後は独自の活動ができるように更に学生組織を強化する。また、学生部相互の横の連絡強化を推進してゆくなど、友愛運動の中核となるべく活動を積極的に展開することを確認し、進めてゆくことになった。

六、国際交流

世界青少年交流協会日本青少年代表団派遣

ヨーロッパ青年指導者班として尾形智矩幹事長、堀田治男、高橋謙二両君が、オーストリー班として森喜郎、山口美緒子、佐久間昌子の三君、フランス班として星野京子さん、ドイツ班として黒川泰宏、榊原光彦、北森竜蔵の三君がそれぞれ参加し、国際親善に大きく貢献している。

この他に、日華青年親善協会派遣として雄谷助成、松本紘二の両君が参加している。

以上の通りであるが、既に報告したものもあり、二面等で報告するものもある。

本部よりの派遣者と組織関係者の懇談会も開かれ、上半期の反省もおこなわれたことと思う。更に友愛活動を発展させるべく共に手をとり合って頑張ろう。

第四回常幹を開催す

カ伯来日の本会取組みを決定

去る八月一日（火）午後六時半より、本部会議室にて第四回常任幹事会を開催した。

出張常幹と地方常幹一部を除き全員出席であり、特に高知の川村効子常幹が出席された。

議長に中川治男常幹を選出し一般会務報告、議事の審議に入った。一般会務報告の中で、飯塚常幹が徳島学生部を七月十五、十六日訪問したことが付け加えられ、組織については、これから益々支部への細い指導が必要であるという事が話題になった。議事に入り、①カレルギー伯歓迎委員会について、②マレイシアMAとしてアドヴァイザー、ガネシャン氏の来日について、③友愛事業について、④日華親善協会台湾派遣について、⑤富士、田方両支部結成承認について、⑥総理府「青年の船」派遣について、⑦その他の議題でおこなわれた。①については、会の関係は本部でおこなうという事が確認され、会からは柳沢常任参与、尾形幹事長、瓦、越川、辻谷の各常幹が担当しできるだけ慎重に取り扱うということになった。②については、健青会、世界青少年交流協会及び本会が外務省の依頼に基き受け入れる予定、③については財務委員会で検討し常幹で決済を取ることに決定、④については松本征二（都連）、雄谷助成（根上地区）派遣決定、⑤については両支部とも諸条件を備えており、両支部の結成を承認、⑥については、七月三十一日で〆切をしており、今までの会活動、及び今までの組織の活動を重んじ選考をおこない、総理府への推薦を決定した。

なお次回の常幹は尾形幹事長が欧州へ出ているので九月十九日におこなう予定である。

友愛クラブが発会

親睦と友愛社会の実現目ざし

去る八月九日（水）正午よりヒルトンホテル宴会場で友愛クラブ発会式が開催された。

式には遠路大阪より山崎勝已氏を初め、静岡県より奥田吉郎・清川庄一郎各氏等々本会の先輩諸兄二十名が出席した。久し振りの対面とあって昔話しから昨今について語らい終始なごやかな雰囲気で進められた。

友愛クラブの発足は以前より待望されていたが、この度深津栄一、柳沢定勝の両氏を初めその他の諸氏が中心となり発足の準備が進められていたものである。

クラブ員相互の親睦を深めていくと共に友愛の社会化に努力していくのを目的とし、クラブ員は、三十五才以上四十五才迄で過去友愛運動を実践した者で構成されるが一般人でも希望者はクラブ員の推薦があれば入会できるものとし友愛の社会化を計る為、門戸を広めている。

式は出席者各自の挨拶のあと、趣意書ならびに会則を審議したあと万場拍手喝采で発会された。最後に本会より尾形智矩幹事長が「友愛クラブの果す役割に大いに期待を致しますと同時に本クラブの発展を祈ります」と来賓の祝辞を述べた。

本クラブは先輩諸兄互の向上のみならず本会との組織的なつながりを一層密接なものとし、多方面に亘り指導鞭達を期待したい。

友愛クラブ趣意書

友愛運動が我国青年の間に組織化されてから十五年になりました。この間、私達は日夜友愛の啓蒙及び実践に、持てる力を発揮してきました。

然し、本年は諸般の情勢から会発足以来苦楽を共にしてきた多くの仲間が第一線を退き、新しい世代にその道を譲ることになりました。思えば会発足以来多数の有為の士が、その志半ばにして社会に巣立たねばならず心ならずも友愛の第一線の戦列から離れ現在各界にて友愛に思いを寄せながら活躍されております。

こうした友愛の諸変遷は勿論友愛の大躍進の賜でありますが、この時を契機として我々は、友愛百年の大計のために友愛の先輩として友愛の社会化に向って前進しなければなりません。こうした時に当り、幸い、去る第十二回友愛青年同志会全国大会にて、そういう各位の意志をさらにたかめるため友愛クラブの発足が決議されましたが、若干の日時の経過はありましたが、有志相集い、ここに強固な意志のもとに本クラブを発足させることになりました。

昭和四十二年八月九日
事務所
東京都文京区音羽一ノ七ノ一
友愛青年同志会内

カレルギー伯歓迎準備委員会を開催

来日に伴い具体的事項を審議

カレルギー伯歓迎準備委員会では去る八月十一日（金）本部事務所において、尾形智矩幹事長、辻谷勝弘常任幹事、柳沢定勝常任参与が集り会議をおこなった。

会議に先立ち、八月二日来日したヨーロッパ青年学生技術代表団についての打合をおこなった。これには、イタリアから高木氏が派遣され、先発部隊として三日前に来日した。この件については、本会では八月二十六日に御茶会を会長邸離れにておこなうことになった。

カレルギー伯（本会名誉会長）の受け入れについては、本会よりまだ正式に招待状を出していないので、第四回の常任幹事会の決定に基き早急に出すことになった。本会のほかに、鹿島平和研究所、NHKも招待しているので、十分に連絡調整をおこない、本会独自のプログラムを作成し、本会全組織を挙げてカレルギー伯の歓迎にあたることになった。カレルギー伯の招待状については、本会の正式な連絡係、スポークスマンも含めて既に発送した。

正式な文書連絡係としては、柳沢定勝常任参与、尾形智矩幹事長がスポークスマンを担当することに決定した。

なお、尾形智矩幹事長が、ヨーロッパを訪問するに際し、時間的余裕があれば、クーデン・ホーフカレルギー伯に会ってくることにもなった。

沖縄を返せの合唱

祖国復帰の青年集会開く

去る八月十三日（日）午後一時より、東京九段会館において"沖縄の祖国復帰を促進する青年の集い"が開かれた。

これは本会や、遺族会青年部、健青会、民社青連はじめ十団体で実行委員会が組まれ、実行されたものである。当日は沖縄の代表を含めて、約千名の青年が集った。

最近、沖縄問題については佐藤首相の訪米計画等に合わせてとみに世の感心を集めている。沖縄の祖国復帰は百万同胞はもとより、日本国民の一致した悲願であり、国民的課題にもなっている。

戦後すでに二十二年、いかに困難な事情があろうとも、これ以上沖縄を現状のまま放置しておくことができない。そのため、従来からこの問題に真剣に取り組んできた青年団体が提携し、純粋な民族的決意を結集することを主眼点において多くの青年が結集したものである。

最近ようやく沖縄問題解決の気運が見られるようになった今日、本会も日本国民として、他民族に支配されている同胞が居るということに注目し、積極的取り組みが図られることが望まれる。

世界青少年キャンプ委員会開かる

メキシコ派遣の準備急ピッチ

世界青少年キャンプ委員会（会長＝川崎秀二代議士）では、さる八月八日午後一時より国立教育会館において第二回理事会をおこなった。

本会より奥田吉郎（常任相談役）、辻谷勝弘（常任幹事）の両理事が出席した。

議題は（1）事務局の移転並びに事務局長の選任について（2）メキシコ対策について、（A）予算（B）派遣計画であった。

事務局の移転については、八月三日奥田吉郎前事務局長と中青連事務局長とが話し合い了解点に達したので、事務局を中青連に移すことになった。

事務局長については、小野里督一理事に決定した。

次のメキシコ対策については、予算は、参加する青少年に負担にならぬようにするための予算を組むことになった。また文部省を窓口として補助金を申請することになった。

尾形幹事長総監督で訪欧

六班に分かれ交歓の成果を

世界青少年交流協会（会長＝川崎秀二代議士）では去る八月十八日十二時半に訪欧日本交歓青少年代表団（総勢百四十名）を派遣した。

一行はヨーロッパ指導者班、オーストリー班、フランス班、イギリス班、ハンガリー班、ルーマニア班の六班からなり、一般公募及び交流協会加盟の団体よりの推薦により決定されたものである。ヨーロッパへ到着後、各訪問国へ行き、その後、ヨーロッパを回り、又一緒になって九月十五日帰国の予定である。

本会からは尾形智矩幹事長がヨーロッパ指導者班の総監督として参加する外、オーストリー班総監督の森喜朗国民運動推進委員長、高橋謙二君（道連副会長）、堀田治男君（都連）が指導者班、星野京子さん（関東学生部）がフランス班、佐久間昌子さん（関東学生部）山口美緒子さん（田方支部）がオーストリー班にそれぞれ参加している。

各班はそれぞれ訪問国で青少年と交歓し、文化産業、農業との視察をし、一層の親善を深めることになっている。本会としても多くの人を派遣しており、その成果が期待されている。

婦人会

定例役員会を開く

今秋チャリティ演芸会を

友愛婦人会（会長＝鳩山薫）では去る八月七日（月）正午より日本信販本店で定例役員会を開催した。

当日の出席者は、四宮副会長、西木幹事長他三十九名であった。

議事に入る前に、西木幹事長を議長に選んだ。

議題は（1）旅行不参加者への返金について（2）今秋の事業計画について（3）臨時役員会の報告についての三議題であった。

（1）の件については、旅行にゆかなかった不参加者には返金することになった。

（2）の件については、チャリティ演芸会を開くことを決定した。内容については、映写会、芸能人出演による演芸等で、詳細については、本部役員に一任することになった。期日については、十一月の末日の平日で、会長と会場の都合により決めることになった。

（3）の件については、役員名簿を作成する、新聞購読料については廃止する、顧問については、進退の問い合わせ状を出してある等の報告をおこなった。

鳩友ロッヂについては、会員にも更に知ってもらうために「鳩友ロッヂ」の案内を印刷、配布してもらうように要請することを確認し、役員会をおわった。

直言

◆残暑がまだ続いております。全国組織の皆様には、観測史上三番目の暑さだそうですが、楽しい夏を過されたことと拝察致します。本会は例年上半期事業が夏に集中し、一番忙しい時期でありますが、本年もその例にもれず、同様忙しい夏であった。◆第十四回の軽井沢指導者講習会に始まり国際道義高揚友愛キャラバン隊、友愛移動文化映画班の北陸班と沖縄班、第三回友愛サマーキャンプ大会等、ほとんど七、八月に開催され、中でも学生部による第六回友愛全国学生会議は、本会の次代を担う指導者の養成という面からも大いに意義のある会議が開かれた。◆本会全国組織の皆様は、第十四回の全国大会で事業計画等については、審議、決定しているので、積極的に参加する義務があるここで少し夏期事業をみてみると全国大会で審議、決定されたので本部では、その通りに開催し、参加を呼びかけている。参加具合はどうであろうか。指導者講習会にしろ、第六回友愛全国学生会議にしろ、その他夏期事業全般にわたって参加者が、予想した程多くなかった。これは、事業の内容からくる魅力というものがないからであろうか。もし、そうであるとするならば、われわれは、これを真剣に考え直さなければならないであろう。それは、われわれが、前向きの姿勢で取り組んで、一つ一つ解決してゆかなければならないであろう。この意味でも、われわれは、自分達のまわりをよくみつめ、どのようにしたら"友愛精神"を生かした魅力を作り上げることができるかを考えようではないか。◆カレルギー伯名誉会長が今秋十月二十三日にプレジデントウイルソン号で横浜に到着することになった。本会でも、カレルギー伯名誉会長を歓迎する準備委員会が着々と準備を進めており、正式な招待状を発送し、カレルギー伯名誉会長より喜んで日本の会員の皆様と会い、楽しく過したいとの返事を受けとっている。全国会員の皆様！これを機会にカレルギー伯を中心とした友愛思想について勉強会を全国的に展開し、来日の際には、大いにカレルギー伯名誉会長と語り合おうではないか。

第三回友愛サマーキャンプ大会

協調精神を涵養

スタッフと参加者が一体で

本会夏期事業のうち野外活動として開催している「第三回友愛サマーキャンプ大会」が八月十一日から十四日まで三泊四日の日程で御殿場市国立中央青年の家太郎坊キャンプ場で開いた。

参加者は、関東学生部会員を中心とし、東京都支部連合会々員、徳島県支部連会より二名の会員がはるばる参加し、約六十名程になった。

九月十一日からの正式日程の始まる前に、十日にスタッフが十名程先発隊として御殿場に集合し、十一日からの準備にあたった。これは、三泊四日の日程をスムーズに運営するために取った方法である。スタッフは、この夜太郎坊のキャンプ場でテントを張り、前日からキャンプに備えた。

第一日目は、午前十一時から受付を開始し、十一時半からテント設営についての説明をおこなった後、十二時から全員班毎に分れ、テントの設営にあたった。参加者の中には、既に二回続けて出席している人もあったので、かなり手早く、上手にテントを張ることができた。

午後一時から開町式をおこない渡部文雄地方対策部長助役より開町式のあいさつがあり、続いて各委員会の委員長より説明、注意があり、友愛の歌をうたって開町式を終った。

直ちに各班に分れ、キャンプクラフトの作成にとりかかった。約二時間あまりの間にテーブル、イス、食器棚、道具立て等を作りコンテストの結果第九班が一等賞を獲得した。

キャンプクラフト作成を終って初めての夕べの集いをおこなった。夜の日程説明の後、友愛旗の降納を行った。

夕食の準備にあたり厚生委員会（委員長＝荻原要一君）は材料分けにてんてこ舞いをする程忙しそうであった。各班とも材料を受取り、めいめい準備にかかった。ある者は、米とぎ、ある者は、火を燃やしたりで、互いに協力し会って作っている姿は実に「友愛精神」の現われそのものであった。

夕食が約二時間かかり出来上って食べた。夕食後、後片付けをして全体懇談会を待った。

全体懇談会は、初めての人、経験のある人約六十名が各自一人ずつ自己紹介をしたが、自己紹介の間にゲームを入れたり、歌を皆んなで歌ったりして、楽しく懇談をして九時半に終った。

その後、各班々長、スタッフが集り町議会を開き、明日の日程の打合をおこない、十時に消灯をして第一日目を終えた。

第二日目に入り、六時に起床、体操の後、朝食の準備に入り、ハイキングが午前中からある関係で、おにぎりを作ったりでたいへんであった。朝食後、直ぐにハイキングの用意をし、出発した。

途中話し合いをしながら、遅れる者あり、先にゆくものありで列を保つことは困難であったが、どうやら目的地に到着、昼食を取りながら一時間程休憩してから、帰途に向った。ハイキングについては小松伯啓企画委員長が中心であった。

キャンプ場に到着し、夕べの集いを終って、夕食の準備に入り、二日目でなれたせいか夕食は早く取ることができた。

夕食後、班別ミーティングに入り七時から九時半まで「男女交際について」、「自分の未来像について」のうち一つを各班で討議しかなり活発な意見が出、大いに成果を挙げた。

町議会で明日の日程を打合せ、十時に消灯した。

第三日目に入り、雰囲気も次第になごやかになり、各班の協調もうまくゆくようになってきた。朝食は、早くすませ、午前中はフリータイムであったので、各自めいめい自由に、懇談したり、散歩をしたり、テントに入って寝たりするものなど様々であった。

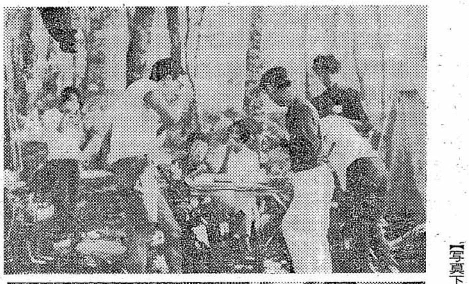
昼食後、フォークダンスやゲームで楽しむ予定であったが、雨にふられ、急きよ本部テントで合唱をおこなうことになり、皆が知っている歌をうたって楽しくすごした。一方、雨の中、皆が疲れているだろうと長田明男君、小松伯啓君が一生懸命〝しるこ〟を作り皆に振舞っていた。その後、夕食は全員で取ることになったので、大きな釜におでんを一杯作ったが、参加者の胃袋の中にほとんど入ってしまった。西田富子さん、増田千恵子さんが熱心に作ってくれたお蔭だと思う。

いよいよ夜はキャンプファイヤー。キャンプファイヤーは、山本雅春君の贈火で始まり、本会常任幹事辻谷勝弘（総務部長）が、あいさつをして儀式を終った。

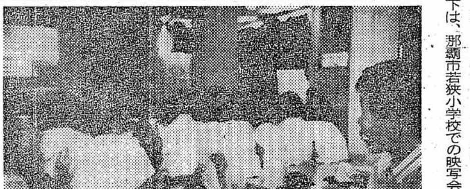
それに続いて各班によるスタンツが始まり〝小さい恋人〟を作った第一班が一位を獲得した。スタンツには〝逃げた女房〟や〝ブーテン族〟等盛り沢山で参加者は十二分にキャンプファイヤーを堪能したようであった。キャンプファイヤーの後、まだ時間があったので最後の懇談に移り、夜遅くまで小さなグループに分れて話し合いをおこなっていた。

いよいよ最後の第四日目は、早朝食をすませて閉設にとりかかった。三日間でなれたせいか、協調精神がお互に養ばれたのか、各委員長の指図のもとに順序よくおこなわれた。大熊隅司器具係は始めから終りまで数が合うかどうかでひやひやであったが、皆積極的に協力してくれたお蔭で何一つなくすことがなかった。キャンプサイトをきれいに掃除して、十一時に青年の家へ出発、昼食を取り閉会式をおこない、三泊四日の楽しいキャンプの日程をとじた。

参加者は、来年もまた会おうとかたく誓い合って帰途についた。



【写真上は、太郎坊キャンプ場での野外食事風景】



【写真下は、那覇市若狭小学校での映写会風景】

論壇

友愛精神を基盤に理論強化に努めよう

（一）

わが国が政治の基本原理として民主々義を掲げてより二十年余、その間多くの民主的制度がつくられたが、民主々義的な考え方や態度がほんとうに根づいたとはいえない。たとえ憲法で制度上は民主々義を保障したとしても、その制度の完成だけでは民主々義が実現されたとはいえないのである。その制度を運用して、それにふさわしい実態を完成する原理と慣習を確立するのには、まだまだ厳しい努力と修練とが必要である。

ことに現代のような大衆社会状況では、個人は自主的な合理性を欠き、孤独と無力感におそわれ連帯意識を失い、それが人びとの政治的無関心の傾向を生み出している。だがもしわれわれがここで政治を拒否し、政治的無関心に陥るならば、それはわれわれが自由や財産を放棄するに等しい。しかもそればかりでなく、われわれが政治に背を向けるならば、政治は権力に野心をもつ一部の者に独占され、民主政治は根こそぎ破壊されてしまうであろう。

われわれは一人びとりが主権者であることを深く自覚し、民主的社会の一員として現代社会の欠陥を認識し、どのような役割を果たすべきかを判断することができる教養と知識を身につけるよう努力を積み重ねていかなければならないのである。

（二）

かつて鳩山一郎先生は国会（第二十二回国会）での施政方針演説において「およそ民主々義の基調は個人の自由の達成と人格の尊厳とを主張する自由主義にありますが、それは同時に他人の自由と人格とを認めることを前提としておるのでありまして、私はこれを友愛精神と呼んでおります。要するに互譲、寛容の精神こそ民主政治を正しく運用させる基本であると思うのであります。」と述べられた。

わが友愛青年同志会はこの友愛精神を基調とし、その実践を通して民主々義社会の実現を目指す青年団体である。したがって本会々員は友愛精神こそ本会の生命であり、この友愛精神を学習することからまず運動の第一歩をはじめなければならないことを皆よく知っている。

しかしながら実状は、ややもすると諸行事の消化におわれて、その運動の中に理論を組み入れていくことはなかなかむずかしいことである。

友愛青年同志会が結成されてより来年で十五周年を迎えようとしている現在、いま一度結成当時の精神にたち還り、運動を展開していく必要があろう。

（三）

幸いにもわれわれの長い間の悲願であったカレルギー伯の来日が、いよいよ今秋実現されることになった。本会はすでに「カレルギー伯歓迎準備委員会」をつくり多彩な記念行事の計画をすすめている。しかし、なににも勝さる心からの歓迎は、一人でも多くの会員がカレルギー伯の人間性にじかに接することによってその精神を学びとることである。そしてその人たちがまた周囲の人びとにその精神を伝え、次々とその輪を拡げていくことである。われわれはそのためにいますぐから心の準備をしておかなければならない。

この機会に多く出版されているカレルギー伯の著書をひもとくのもよいであろうし、読書会や学習会を行うのもよいであろう。だが読書をするにしても、その活字を追うのに熱心のあまりその行間に溢れるカレルギー精神を汲み取ることを怠るならば、その実りはまったく少いものとなってしまうであろう。

（四）

いまからおよそ一〇〇年前、アメリカの詩人ホイットマンは、「民主々義の展望」のなかで「われわれはしきりに民主々義という言葉を印刷してきたが、しかしこの言葉は筆や口での反響や、狂った幾度かの嵐から途切れ途切れにいくらひびかせても、この言葉の本当の主旨はやはりぐっすり眠っていて、眠りをさましていないということをなんべんくり返してもさしつかえない。それは偉大な言葉であるが、なにしろその歴史はこれから演ぜられねばならないから。その歴史はまだ書かずにいるのだから。」と記している。このホイットマンの言葉は、時代を越えてそのまま現代社会にあてはめることができるのである。

カレルギー伯来日の機に、われわれこそ民主々義社会樹立の旗手であることを再認識し、たくましく運動をおし進めよう。

移動映画班

沖縄を巡回

暖い歓迎の中で交歓の実挙ぐ

友愛移動文化映画班は第一次派遣・北陸巡回を終え現在第二次派遣・沖縄・南九州の全般を巡回中である。

去る八月十四日出発した映画班渡部文雄地方対策部長を初めとした一行より沖縄地方巡回の経過と現地での事細かな様子がこのほど本部宛送られて来た。以下その報告を掲載した。

那覇港では現地での本会指導者崎山喜聖、玉那覇博両氏の出迎えを受けた。容赦なく照りつける南方の太陽をうけながら、重い映写機を背負い我等の訪問を待っている那覇市若狭小学校へと向った。

小学校図書館には六年生の児童百名余りが心待ちにしていた。早速映画会の主旨説明をしたあと上映にうつった。

日焼して真黒になりまったく健康そうな児童達は終始真剣な眼差で、それは好学心に燃えた沖縄児童の姿であった。

映画会終了ご学校長、教頭、PTA会長を囲み沖縄の教育の現状本会の沖縄で果すべき役割など約二時間におよび懇談した。

那覇市の青年との懇談会には、本会那覇支部結成の中核となる十五名と沖縄青少年団体連絡協議会B・B・S会員等数名がオブザーバーとして列席し開催された。

互の情報交換のあと沖縄に於ける青少年活動のあり方、必要性等について会は進められた。戦後二十年余り経過した現在、ようやく学校教育が軌道に乗り充実して来たのが現状で、まだ社会教育の方面には関係当局も一般市民も目を向けるまでには到っていないようであった。活動しているいくつかの団体は存在しているが、それらの大半は政治活動が主であったりあるいは思想的に偏向している団体である。この様なことは青少年健全育成のためには好ましくないと一同異口同音に述べられた。

この様な現状を鑑み、青少年活動はあくまでも健全な思想を基調とし成長途上にある青少年をして社会の現状を正しく把握させ、正しく判断の出来る物の考え方を養わせることにあるべきであるとの基本的態度が打ち出された。そして沖縄に於ける社会教育活動を正しい軌道に乗せ、推進して行く為に友愛組織を作らなければならないことが申し合わされた。

本会支部が結成されることは沖縄の社会教育に多大な影響を与えることになり、また本会組織充実という面からも大きな意義がある

経済文化の中心地、那覇市を後にして風光明媚な西海岸を北部へと向った。那覇から車で約三時間平良山の山中に沖縄産業開発青年隊訓練所がある。

この産業開発青年隊は長年海外移民、地元産業の開発に大きな業績を残しておりその役割は今後増々・琉球政府・沖縄全島民に期待されるであろう。

この青年隊は自主自立できる開拓精神にあふれた逞しい若人の育成を目的とし、毎日一定の作業と講義を行い豊富な知識と技術の修得をめざし日夜たゆまない訓練を続けている、それは農業、土木・畜産・機械の多岐にわたる。

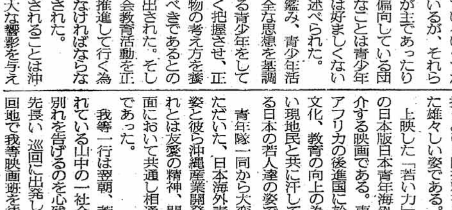
青年隊綱領には「私達は友愛と共励を信条として、自主自立の精神を培うために団結します」と友愛精神を誇っております。本会との交流は長年にわたっており青年隊理事長瑞慶覧長仁氏をはじめ多大な賛助を受けております。本会沖縄北部の指導者でもある青年隊総務課長、勝連盛守氏は教室内では友愛の理論を、日夜の訓練には友愛の実践を共励しております。

朝日が昇り初める五時半ちょうど「起床」の号令で飛び起きる。一日の充実した厳しい訓練が初まるのである。洗面もせず宿舎の前に整列しグランドに集合するや直ちに四㌔の道を走る。一歩一歩「イチニ・イチニ」の掛け声で走る、隊員の体から汗が流はれ初める、朝から照りつける太陽に汗がギラギラ光る。郷里沖縄の産業開発を担うという開拓精神に満ちあふれた雄々しい姿である。

上映した「若い力」は平和部隊の日本版日本青年海外協力隊を紹介する映画である。東南アジア、アフリカの後進国に於いて経済、文化、教育の向上の為の援助を担い現地民と共に汗して働らいている日本の若人達の姿である。

青年隊一同から大変な称賛をいただいた、日本海外青年協力隊の姿と彼ら沖縄産業開発青年隊のそれとは友愛の精神、開拓精神の両面において共通し相通じているのであった。

我等一行は翌朝、若い力のあふれている山中の一社会、青年隊に別れを告げるのを心残りにして、先長い巡回に出発した。次の巡回地で我等映画班を待っている。



中国地方随一の景勝地である尾道千光寺公園内に三階建の快適な宿泊施設をほこり，太陽に輝く瀬戸内海を望む楽しい旅行に是非御利用下さい。
広島県尾道市千光寺公園内
尾道友愛山荘　TEL 尾道 (08482) 5554
所長　髙橋嚴宣
（ユース・ホステルの規則に従っています）
宿泊料金　1泊2食　会員 550円・一般 600円

友愛山荘
軽井沢の夏は世界の避暑地としてまた冬のスケート王国としては勿論四季を通じての美しさは，若人の心をいやし明日への活動を約束いたします。
長野県北佐久郡軽井沢町1608
軽井沢友愛山荘　TEL 軽井沢 (02674) 2477
ペアレント　三浦満

朝日磐梯国立公園の恵まれた景観の中に建って，東洋一を目ざす猪苗代スキー場と清澄な猪苗代湖を望み春夏秋冬それぞれの美しさをほこっています。
福島県耶麻郡猪苗代町字葉山
磐梯友愛山荘　TEL 猪苗代 (024262) 424
ペアレント　卯月研造
問合せ　財団法人　日本友愛青年協会
東京都文京区音羽町7の10　TEL (941) 2801

友愛思想の研究について

段階を踏み、理論に強くなろう

一、はじめに

オリジナルな形で友愛思想がどういう所から出発したかを見る為には、フランス革命のスローガンの中の「友愛」がどういう意味をもっていたかを研究する必要がある。しかしそれは学者とくに歴史家とか政治思想家などの仕事である。もしそれを自分の研究テーマとしてやるなら大事なことであるけれども、とりあえず友愛思想を知ろうと云うのなら、鳩山先生の訳された「自由と人生」を読書会のような形で読んで行くとよい。

その読み方が深いか浅いかは、集まる人々によってそれぞれ違うだろう。しかし集まった人々のレベルでそれぞれ読んで行けば良いのであって、その中から少しでも読み取るものがあれば勉強になって行くと思う。そして初歩の人でも何度か読んだり調べたりしているうちに深く読めるようになるだろう。

二、読書会

読書会を開くならレポーターを決めて　おき前もってその人が調べて来ると云う事が必要である。それをしないで、ただ漠然と集まって、本を読もうと云うだけではそんなに進歩はない。それでは結局行きあたりばったりの議論と云う事になって、それぞれ持って居るものを話すだけになる。

たとえて言うならば、「一円のアルミ貨幣が十枚集ってもチャラチャラと云う音ぐらいしかしないその中に十円銅貨が入っていれば多少良い音がする、しかし百円の銀貨が入ったら尚、良い音がするだろう。」もちろん全部の人が十円になれ、百円になって集まれと云う事は無理なことかもしれないけれど、その中に百円の人、十円の人が二人三人入っていれば、あるいはレポーターが百円位の段階に達していれば「自由と人生」と云う本もかなり深い所まで読めるだろう。

三、初めての人々には

まず初歩の人が友愛思想の勉強をしようと云うのなら、はじめは民主主義の本だとか、或は政治思想、社会思想の本から読みはじめたらどうだろうか。

宗教的な仏教の本でもたとえば「嘆異抄」なんかを読み始めたら良いだろう。「聖書」なんかは世界で一番沢山の人が読んだ本だからこれを読むのも良いでしょう。

しかしそれらを読む場合には、宗教的な立場で友愛と云う事を言っているということをたえず念頭におくことが必要でがる。

友愛青年同志会の場合には、やはりカレルギー伯の思想と云うものが基礎になっているのであるから、カレルギーの本を最初に読まなくてはいけないのではないかと思う。その他にどのようなものがあるかと言うと、例えばルソーの本、ベンサムの本、ジョン・ロックの本などフランス革命前後の、本を読むことが大切である。それは友愛思想が生れて来た社会的な背景を知るという意味である。さらに言えばマルキシズムの「マルクスの資本論」なんかも読まなければならないと言ってもよい。

はじめに「自由と人生」を読むとして、そのほかに副読本的なものとして、カレルギー伯が書いたり話したりした事を収録した「人生の戒律」と云う本がある。これなどは肩が凝らずに読める。「自由と人生」が極めて政治的な色彩が強いからとっつきにくいという人や、人生そのものに友愛思想を役立たせようと言うのなら、この「人生の戒律」なんか面白い。この中には〝愛〟〝宗教〟〝男性と女性〟〝教育〟〝自由、〝美〟と云ったような問題が載っているので開けた所を読むという方法でもよいし、原文ものっているので、ドイツ語の教科書なんかにも使えると思う。このほかには「ゼントルマン」というような本も副読本として使えると思う。

一般的に、ある人の思想を研究するためにはその人の伝記を読む事が大切だと思う。伝記は肩も凝らずに読めるし、その人がどのような人生を辿るかと云うのを知る事が出来る。

カレルギー伯の伝記のなかでは「回想録」がよいと思う。ほかに「汎ヨーロッパ十字軍」という本もあるが、これも伝記として読むと、読みやすいし参考になる。これは第二次大戦が起ってカレルギー伯がアメリカに亡命し、コロムビア大学の教授をしていた間に書かれたものである。

四、少しすすんだ人々には

笠信太郎さんの「ものの見方について」は、「自由と人生」と一緒に読むのだったらこの本などは良いと思うが読み方によっては難しい本である。ハイキングやコーラスのグループでもやるような気持では、だめである。

つぎに「実践的理想主義」なんかは「ものの見方について」と同じ位の程度の人が読むとよい。

「汎ヨーロッパ」、「ヨーロッパ国民」、「ヨーロッパの三つの魂」などの本も友愛主義に基づいて平和を実現するにはどうしたら良いかと云う具体的な方向を示したという意味での中級の人が読む本である。これらの本は相互に、内容的にある程度重複がかなりある。

それは何故かと言うと、思想家が次々と違った思想を本に著わすと言うのは本来あり得ないことだからである。小説家なら幾つかの小説を書いて全集にする事も出来ますが、哲学的、思想的な著書については、本を何冊出しても啓蒙書であったり、あるいはその思想を別な角度で言ったりしているのである。だから「汎ヨーロッパ」を読んだら「ヨーロッパ国民」は読まなくても良いし、ほかに「自由と人生」を読んでつぎにカレルギー伯の伝記をよく読めば、それでもうカレルギーについてはだいたい解ると言うことさえ出来る。

五、さらに進んだ人々には

さらに友愛の研究を深めると云う意味では、社会政治思想史的なもの、例えば、ルソーのもの、ジョン・ロックのもの、或はマルクスの「資本論」「共産党宣言」を読むとか西洋の歴史を読みすすんで行くことが必要である。歴史は中級の人でも初級の人でも重要である。

西洋史の本は色々出ておりますから、どれだって良いと思うが、わりあいに解り易い、読み易い物としては、中央公論から出ている「世界の歴史」が良いと思う。

また資本主義が爛熟して来て資本主義の色々な矛盾、色々な悪い面が表われてきて、それをどういうふうに修正するか、社会はそれをどういう方向においてのりこえて来たかと云うのを歴史的に見ると云う意味では経済史、思想史、社会思想史なども上級になったら読むとよい。【この記事は中央教育指導部、情報宣伝部が中心となり、まとめたものである】

カレルギー伯の来日

常任相談役　**深津栄一**

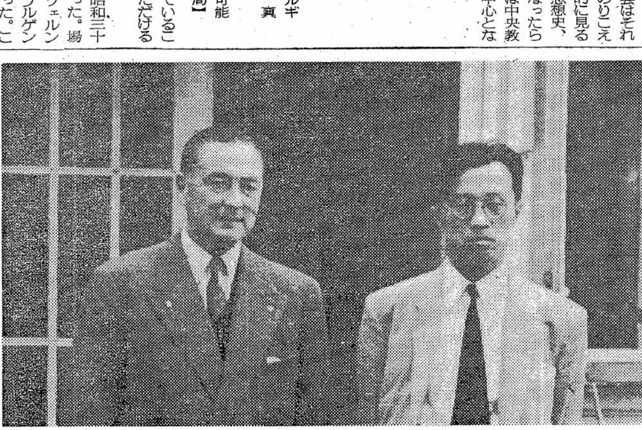
われわれ全国会員の創立以来の大きな夢が、いよいよ来月に実現する。われわれは、カレルギー伯名誉会長の来日を大いに歓迎しなければならない。その為には全国会員が一丸となって、真剣に取り組まなければならない。

カレルギー伯名誉会長は、今回の来日でおそらく二度と高齢の為われわれと会うことは不可能であろう。ぜひとも、われわれは、この訪日を意義あるものにしなければならない。【編集局】

わたくしがはじめてクーデンホーフ・カレルギー伯にお会いしたのは、昭和三十一年八月二十五日であった。場所は、スイスの首府ベリンの郊外グルテンクルム山の上にあるホテルであった。その前日、わたくしは滞在中のスイスのローザンヌの近くにあるプインドウという村から電話で会見の約束をとった。世界一便利だといわれるスイスの電話は、当時でもスイスならば、ダイヤル一つでどこでも呼び出せたのである。受話機を通して聞こえるカレルギー伯の声は、若々しく張りがあったのをいまでもおぼえている。これがカレルギー伯の声を聞いた最初であった。

グルテンクルム・ホテルでの会見のもようは、すでに当時の友愛新聞にくわしく書いたし、その後会のいろいろな集まりや研究会などでお話ししたので、ここでは改めて書く必要はないであろう。「世界永遠の平和は不可能である」というカレルギー伯の平和論によって大きなショックをうけたのもこの時である。この時わたくしがうけたショックの大きさは、いまでもわたくし自身の平和にたいする考え方をまったく支配していることによってもおわかりいただけると思う。

つぎにお会いしたのは昭和三十四年の八月二十七日であった。場所はやはりスイスで、ルツェルンから湖水を船でわたったブルゲンシュトックのホテルであった。この時はわたくしがアフリカに行った帰途であって、わたくしがアフリカの印象を話し、それにカレルギー伯がそれぞれ独自の見解をつけ加えられたことがつよく記憶にのこっている。国家間の戦争はなくなることはあっても、人種間の戦いはなかなかなくならないというようなこともいわれた。この時は、お互にくだけて旧知のようにいろいろな話をした。カレルギー伯夫人も母国であるスイスの国の話をされ、故郷の街のことなどうかがったのであった。そして船の時間がせまっても、なかなか話が尽きず、結局帰りの船にのりおくれてしまったので、ホテルの自動車でルツェルンの街まで陸路送ってくださったのであった。


【グルテンクルム・ホテル前でカレルギー伯名誉会長と記念撮影の筆者】

それ以来ことしで八年の歳月が流れた。昭和三十九年にカナダでの一年余の学生生活のあとヨーロッパまわりで帰国することを計画し、またカレルギー伯にお会いしようと思って、そのための旅費をアメリカの財団にたのんだりしたが、結局実現できなかった。カレルギー伯が十月に来日できると思うと、十年余り前のはじめての会見のときのように胸がおどるのである。

しかしながら、カレルギー伯の来日があと二ヵ月にせまったというのに、わが国の有識者の間にそれほど関心が高まっていないのはどうしたことだろう。それは、今回の来日について、NHKや鹿島平和研究所、友愛青年同志会の共同招待者の側で、まだ正式に発表していないということもあろう。しかし、カレルギー伯の著書「パンヨーロッパ」が鹿島守之助博士によってわが国に紹介されたのが昭和四年であり、さらに鳩山一郎前会長が「自由と人生」を出されたのが昭和二十八年である。しかも、友愛青年同志会は、その結成以来十五年をやがて迎えようとしているのである。そのように考えると、会の運動をつづけてきたわれわれの責任をつよく感ぜざるを得ないのであって、カレルギー伯の来日を機会に、一層の発展を期するよう、現在の幹部諸君の奮起を促したいと思うのである。

【筆者は日本大学助教授であり、本会理論の指導者でもある】

カレルギ伯おぼえがき

〔4〕

◎パン・ヨーロッパ運動

一九二三年に刊行された「パン・ヨーロッパ」は、ヨーロッパのみならず北アメリカからさらにラテンアメリカにまで評判となっていった。そして同時にカレルギー伯によるパン・ヨーロッパ運動の組織化も急速に進んだ。ヨーロッパの著名な政治家や外交家たちも競ってこの運動に参加するようになり、やがてフランスの外相ブリアンは、その名誉総裁をひきうけるに至ったのである。

彼の著書「パン・ヨーロッパ」には、その一冊一冊に「私はパン・ヨーロッパ連盟に加入します」と印刷したハガキがはいっており、その本を読んだ人でこの運動に共鳴する人は、だれでもその葉書をカレルギー伯のところに送れるようになっていた。カレルギー伯は、この本を、ヨーロッパの著名な政治家や外交官、有名な雑誌の編集長、教育者、経営者、銀行家などいわゆるオピニオン・リーダーと思われる人のところへは、無料で送った。彼の自叙伝によればこの無料配布の冊数は数千部におよんだといわれている。さらに著書にハガキをはさみこむ方法は、外国で発行される場合も踏襲された。それは、各国の出版社からこの本の翻訳権や版権の依頼があるたびに、カレルギー伯は、一部ごとに入会申込書のハガキをはさみこむことを条件に、翻訳や出版を許可したからであった。

◎運動の方法と発展の原因

「パン・ヨーロッパ運動がなぜこのように短期間に、またきわめて多くの人々を組織化することに成功したが、とくに著名な政治家や外交官が参加した理由などを、わたくしはいろいろ考えてみた。その一つはもちろんその思想のすぐれていたことがあげられるが、それに加えてカレルギー伯の政治力によるところが大であり、彼の自叙伝を読むと、各国の代表的政治家に直接会見して「パン・ヨーロッパ」の思想を説くという記事が非常に多い。それは、彼がオーストリア貴族の出であり、また当時のヨーロッパの一般的状況から、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアのような大国の出身でないということも、かえって幸いしたのではないかと思う。これは現在の世界で、スエーデン、ノルウエー、デンマーク、ベルギーなどの外交官に比較的活躍している人が多いのと同じ現象ではないだろうか。国連の歴代の事務総長には、アメリカやソ連、イギリス、フランスといった大国の出身者がいないということにも通ずるであろう。

パン・ヨーロッパ運動の成功した第二の要因は、その運動の方法にあった。前記のハガキをはさみこむ方法―現在の世界ではなんの新しさもないきわめて月並みの方法であるが、一九二三年当時ではきわめて斬新な画期的な方法であったこともその一つであるが、彼の講演会の方法もまた特色があった。すなわち、彼の妻は、オーストリアのみならずヨーロッパ各地に知れわたった名女優、イダ・ローランであり、各地の劇場のスターであった。そして、彼の講演会はつねにこのイダ・ローランの演劇と組み合わせであった。現在でもいろいろな催しものに、アトラクションとして映画や演劇を組みあわせるという方法が行われているが、当時のヨーロッパでは、そのような方法は、講演の神聖さや権威をきづつけるという意識が一般であり、カレルギー伯のそのような方法は非常な冒険でもあったのである。しかしカレルギー伯は、大たんにもこの方法によって大衆性を獲得し、その運動の基礎をひろく、かつ深くしたのであった。

友愛運動の初期「移動映画班」が日本のチベットと言われる東北の各地をまわって、映画をみせては友愛を説いていたことがあった。現在は会社の社長として着実に業績をあげている川手正一郎君などは、この「移動映画班」の育ての親であり、同時に身をもって実践してきたのであって、友愛運動を地方に定着させるのに大きな効果があったのである。テレビの普及によって、今日ではこのような宣伝普及の方法は時代おくれとなってしまったが、その原型はまさに「パン・ヨーロッパ運動」にあったのである。

第三のパン・ヨーロッパ運動発展の原因は、カレルギー伯が、どの国のどの政党にも、また特定の財界人と特別の関係をもたなかったことである。いわば国境をこえた完全な「無所属」であった。このことが、彼にたいして個人的な対立意識や敵意を生じさせる危険をなくし、思想にたいしても一部の国家主義者や全体主義者を除いて、ほとんど反対らしい反対を生じさせなかったのである。そして年月の経過とともに、パン・ヨーロッパ運動の象徴である金色の太陽に赤十字のバッジが、多くの人々のえりに輝くようになり、それをつけている人は、これによってヨーロッパの運動に参加しているという誇りを感ずるようになったのであった。

株式会社
鉄鋼ビルディング

株式会社
増岡組

株式会社
中嶋組
営業品目
アスファルト系舗装工事
セメント系舗装工事
其の他各種舗装工事
舗装に付帯する各工事
取締役社長　中嶋信行
東京都世田谷区玉川中町二の五九
電話（七〇二）三八六一番
八七八三番

ビル内外の綜合清掃管理
東洋実業株式会社
本社　札幌市南一条西三丁目（勧銀ビル）
電話代表（25）2211―（内）216，287
夜間専用（25）２２１７
営業所　岩見沢，苫小牧，旭川

地方だより

友愛納涼祭を開く

歌い・踊り・模擬店で舌鼓

【三島発】三島支部（支部長海野信幸君）では、八月十二日午後六時より、富士の白雪が湧きでる市内白滝公園において、県下支部の親睦をはかるため「友愛納涼祭」を行った。折からの小雨も七十人余の若人の情熱に押されて間もなく上がり会場は所狭しと次々に展開する諸行事でにぎわった。

海野信幸支部長を先頭に小野正浩君、小林一子さん、笹原勢津子さんの演ずるホークバンドに合わせて、ホークダンス、ホークソングが軽やかなステップ、心良いリズムでくり広げられ、その合間を縫って森田秀昭君、蛇穴紘二君、野村恵子さんの指導するクイズやゲームで全員大いに爆笑した。

更にこの友愛祭の呼びものの、湯山文子さん、鈴木佳津代さん山本由有子さん調理のスナックコーナーでは、友愛嬢のそろいのエプロン姿、模擬店等のムード作りに一役買い、この日の友愛特製ドリンクの売れ行きも上々。ドリンクコーナー・スイカコーナーも若人達の、のどをうるおした。とうもろこしの屋台では、盛んに芳香い香いがし、おでんコーナーはとりわけ、人が集まり、人気の的となった。

この集いには、近隣の田方支部富士支部を始め多数の若人の参加があり、踊り、歌い、そして食べ飲みの楽しい夏の夜を送った。この夜の模様は会員の写真家坂口敦之君の手で撮影され、傑作集ができあがった。

【三島発】三島支部（支部長＝小野正浩君）では役員の改選をおこない新たな意欲をもって活動に励んでいる。

当支部では六月二十一日長田正太郎組織部長及び窪田晌組織委員（伊東支部長）を婦人青少年会館に招き、活動を活発にしょうということで意見を交歓し、気運を盛り上げようということになり、七月五日（水）総会を開いて役員の改選をおこなった。

当面の活動として、国際道義高揚友愛チャラバン隊の協力体勢、七月二十二、二十三日の富士登山八月十二日の納涼祭等の事業を計画した。

なお新役員は次の通りである。

支部長　海野　信幸
副支部長　森田　秀昭
事務局長　湯山　文子
会　計　野村由美子
会計監査　坂口　敦之
幹　事　岩崎勝則、桑畑春夫
小林一子、笹原節子、蛇穴紘二
望月義夫、山本由有子

※新事務所＝静岡県三島市大社町八ー三六、湯山文子方

【写真は模擬庵で活躍する本会々員】

第3回 フォークソング フェスティバル を開催

市民の協力で多大な成果挙ぐ

【伊東発】去る八月十八日本会伊東支部（支部長＝窪田晌君）では「第三回チャリテイ・フォークソングフェステイバル」を開催した。出演者には、レッツゴー'67MRA、カッペーズ、サニイサイドフォーク、吉田勝宣、それに友愛にたいへん理解のある友利健三君が参加した。

観客は約千人位であった。

司会は福田純一君が努め、開会の挨拶を高橋敏雄君が、来賓としてあいさつを本会常任相談役奥田吉郎氏、伊東支部長窪田晌君がおこない、幕があがった。

一部と二部にわかれ、レッツゴー'67MRAは、約八十人が舞台につくられた階段に両側から勢いよく飛び出し、歌い出したのには観客はあぜんとした。

また、友利健三君は、既に何回も伊東市をおとずれている関係でかなりのファンを持っているが、歌の方は、明るく、暖かみがあり、フォークソング本来の味があり、子供達が非常に喜んでいた。ザ・カッペーズ、サニイ・サイド・フォーク、吉田勝宣君の歌は非常にすばらしく、観客が合唱する程であった。その他の出演者も非常に雰囲気に合った歌をうたい、なごやいだムードであった。

招待としては、川奈臨海学園、宇佐美児童学園の生徒二百名を招待した。

名ごりがつきないが、いよいよ閉会に入り、女性部長野田久子さんが閉会の挨拶をおこなって、幕をとじた。

途中、熱海に友愛の支部を結成する同志が空手の円舞をおこない、拍手かっさいをうけた。

帰りにあたり観客は、非常に暖いムードで、家庭的であったと口々に言い合って帰途についた。

来年は、第四回を予定しているが、今回の良い点は更に伸ばし、いたらない点は更に改良してゆくとの反省があり、今回の開催にあたって会場となった観光会館の館長さん、看板屋さん、印刷屋さん等側面からバックアップしてくれた関係者の皆様にお礼を申し上げます。

窪田晌支部長談＝三回目を迎え市民の間に拡がっているせいか、沢山の観客が集った。これには市民の絶大なる支援の賜と感謝致します。これからは〃友愛精神〃を基調にして伊東市のみならず、静岡県下を友愛で包むようにしてゆきたいと考えております。

新常幹ハイライト

実践的な理論家

東京都連　長田正太郎

長田正太郎君を知っている会員は、中央、地方を問わず多いことだろう。本部職員として三年目を迎え、組織部長として全国をくまなく回っているからである。

彼が日本大学に入学すると、文化サークルの一と〃雄弁会〃に籍をおいた。三年になると彼は、民主々義の根元を極め求めるために法律を先攻していながら政治のゼミナールに入室、民主々義の何んであるかに足を踏み入れたのである。一方、雄弁会の代表として二年から下積み生活をした文化団体連合会での活躍は四年になると全く全員の推薦により委員長の座を与えられる結果となった。彼の現役時代には未だ文化サークルの理論構成が多く成生されていず、新入生歓迎会、リーダースキャンプ、大学祭、ミュージカル、総会等々……何んのために行なうのか、行なわなければいけないものだろうか、と一つ一つ初歩から始められたのであった。そんな長田君の現役時代の位置づけを、現役の後輩達は『長田時代』といってサークル理論の一頂点にしている。そして、理論を実践〃に結び、また新しいものを生みだすという文化団体連合会での成果は、卒業時に『日本大学総長賞』受亨で賞えられた。

彼は「実践は常に理論をともなわなければならない」という主張を実行したことに自負らしきものを持ってはいるが、多くの熱心な同志がいなければ出来ないということを必ずつけ加える。他人をたてるということは彼の特徴の一つである。荒川にある長田家は、彼の学生時代荒川合宿所と呼ばれ、本人が居なくとも、男女を問わず誰かは必ず訪れていたものだ。友愛においても都連、地方会員と共に語り、学生部の会員からは、兄のように慕われている要素は、泣き笑いの大きい人情家の、そんな人柄が彼の囲りに人垣を造らせるのであろう。

四十年三月、日本大学を出ると直ぐに、ためらわず青少年活動の道に足を踏み入れたのは、当時の幹事長奥田吉郎君、事務局長宮田靖君、現北海道連幹事長土谷亨君の強力な推薦があってのことであった。三君は、共に彼の大学（雄弁会）での先輩であり、その推薦は、彼の学生時代の実力を高く買ってのことだといわれる。友愛青年同志会を知ったのは、多くの良き先輩達のお蔭である、と彼はいうが職員として入会する時、持ち前の実践に理論を加えて、青少年活動の何んたるかを友愛青年同志会の会活動に関連させて、激しく先輩達につめよった話は有名。納得とまで行かなかったらしいが、人生の大切な青年期を送るには十分な場所として選んだ友愛が、今では友愛あっての長田を自負するまでにやりがいのある場と心得ている彼である

四十年の入会と同時に、本部地方対策部長、四十二年からは常任幹事、本部組織部長として組織の重大さを声高らかに唱っている。人がいなければ、同志を集めなければ、理論も実践もないと彼はいう。組織充実を叫ぶ彼は、荒川支部における多大な指導、東京都連合会の副会長としての責務遂行。組織を持たないリーダは存在しえないという自論を身を持って実践するため「友愛」に若い命をかけて毎日毎日飛び廻っている。一方では、東京都青少年と共に進む運動推進協議会常任委員の大役も兼務しているが、役職だけで何にも出来ない時は身を引くと常に口にしている。そんな弱気な言葉よりは、むしろ、「やってやれないことはない」と青年の意気を見せるこれらの行動も勿論、青少年活動の重要性を身をもって確かめているからであり、友愛を推し、友愛を発展させなければいけないという強い信念があるからだろう。

このような多忙な活動の中で決して彼が忘れないのは研究重視の立場である。都連における週一回の学習会。月一回本部が主催する研究会は、同期の桜、本部総務部長辻谷勝弘君と歩を合わせて推進し『日本の友愛思想』確立に力をそそいでいる。

今回、第九回 政府 海外派遣（南米班）に選ばれ、九十日間を他国に住ごすことになった。そんな見聞が彼をなお一層大きな人間に成長させることになる

彼のプロフィールの最後を結ぶに当って、常に彼が口にしている言葉「友愛がなければ今の長田はない」という言葉に、彼の全貌を収縮することが出来る

班別事業を実施

会員の協力で事業の成果挙ぐ

【登別発】登別支部（支部長＝小池雄三君）では六月、七月、八月の事業を次のようにおこなった。当支部は支部をA、B、C班に分け各事業を一月ずつ各班が担当して事業を担当しており、昨年よりこのシステムをとり、大いに成果があるようである。

六月　ボーリング大会

六月三十一日第二回友愛ボーリング大会、三ヶ月に一度の割で、体力向上とチームワーク向上を図るべく実施するもので、文化的、娯楽施設の無い当地の条件もあって参加者も多く好評であった。三ゲームトータル制で種々賞品も考えられ参加者に好評であった。なお、男子優勝は渡辺喬君、女子優勝は蒲幸子さんであった。

七月　植木販売

福祉機関訪問の基金造成を目的として、また会活動を町民に熟知してもらうべく、観光地である登別は、観光者で賑っているところから売り易い状況にあるので、北海道特有の松苗とか高山植物系の花苗を主として販売している。期間は七月十五日から八月十六日迄毎日会員 交替制でおこなっている。最終日は記念植樹をおこなう予定。

盆踊り太鼓部

四、五年前登別では盆踊りをおこなっていたが、現在おこなわれていないところから、何とか盆踊りを復活させようという気運を盛り上げた。それには太鼓を打って実際におこなって行こうと、会員の中で有志の者が集って太鼓の練習を始めたものである。八月七日は七夕祭りでもあるのでそれに合わせ、まず子供盆踊り大会を開くことにした。引き続き、八月十三日〜十六日に盆踊り大会を開催する予定である。

中央日誌

8/1 第四回常任幹事会（後六時半　於本部）
教育キャンプ講習会（一日〜五日　於国立中央青年の家）
6 銅像清掃（前七時　於護国寺）
7 第五回都連常任委員会（後六時半　於本部）
早朝墓参会（前七時　於谷中墓地）
友愛婦人会定例役員会（正午　於日本信販）
8 世界青少年キャンプ委員会（後一時　教育会館）
友愛移動文化映画班打合（後七時　於本部）
友愛サマーキャンプ大会打合（後三時　於本部）
9 友愛クラブ発会式（正午　於ヒルトンホテル）
訪独日本青少年代表団帰国（後四時　羽田）
第七回鼓笛バンド全国大会（於榛名ユースハウス）
10 第三回友愛サマーキャンプ大会（十日〜十四日　於太郎坊）
13 沖縄の祖国復帰を促進する青年の集い（後一時　於九段会館）
14 友愛移動文化映画沖縄南九州班出発（前十時　東京駅）
15 事務局会議（後三時　於本部）
第四回執行部会議（後六時半　於本部）
財務委員会（後八時　於本部）
17 ヨーロッパ青年技術団受入打合会（後四時　於はなれ）
18 伊東支部第三回フォークソングフェステバル（後六時　於伊東市観光会館）
世界青少年交流協会ヨーロッパ派遣団出発（正午　羽田）
世界連邦世界大会代表団帰国（後四時　羽田）
22 MAYC・アドバイザーガネシャン氏来日（後九時　羽田）
23 斎藤実情報宣伝部長帰国（後四時　羽田）
25 中青連第一回特別委員会（後一時　於中青連事務所）
26 ヨーロッパ青年技術団交歓会（後三時　於はなれ）
日本健青会全国大会（後一時　於日本女子会館）
29 MAYC・ガネシャン氏と交歓
30 第一回都政学習会（於婦選会館）

巣箱作りと慰問を

広範囲に社会福祉活動を推進

【小樽発】本会小樽支部（支部長＝本間敬君）では会員の協力を得て愛鳥巣箱作りをおこなった。会員各自が大工道具を持ち寄り女性会員も慣れない手つきでカナヅチを持ち、男性会員の手助けをおこなった。

材料は主旨を賛同された材木屋さんから寄贈を受け二個の巣箱を作り会員は作りなれていないので種々の形の巣箱ができあがり、喜びはかくせないようであった。

その上市社会教育課のアドヴァイスで林の近くにある二校の小学校に寄贈した所、大変喜ばれ、来年もぜひ作って欲しいと激励された。

また新聞にも大きく報道され、来年は全小学校に寄贈できるよう頑張ってゆこうと誓い合った。

去る五月三日（水）同支部では姉妹施設である銀山桜ヶ丘学園へ映画会の慰問に出かけた。

同学園には隔月に定期的に訪問しており、前回訪問した際に園長先生が、学園の生徒は映画をみる機会が全くなく可愛想だということで二本のフイルムを持って早速企画を立て実行したものである。

また、今回からは数ヶ月おきにでも映画を持参して、少しでも生徒を慰問したいと考えている。

七月上旬には幼児を小樽の水族館に招待する計画も着々と進んでおり、更に七月下旬か八月上旬には学園の上級生との合同キャンプを計画しており、姉妹施設との交流を積極的に行い、われわれの勉強のためにも、学園の生徒のためにも幅広い活動をおこなってゆく

洗顔、入浴（全身美容）等お肌の美容に！

ニッセイ　ミルバー

●ミルバーはラノリン、スクアラン等の成分よりつくられた新美容剤です。
●体が暖まり、風邪の予防、神経痛等に効果があります。
●アレルギー、アレ性、赤ちゃん等どなたでも安心して御使用出来ます。

総発売元　日盛商事株式会社
東京都千代田区外神田4丁目5番4号亀松ビル
営業部　電話　東京（253）7581〜5

MORIYAMA★★★

よい・やすい・はやい
創業20余年の伝統と技術を誇る！

TRADE MARK

リーマー・エンドミル・カッター
モリヤマの特殊切削工具

製造元　森山精密工具株式会社
取締役社長　五十嵐省吾
本社第1工場　東京都品川区西大井6−14−3　電話　東京(03) 774−0881(代)
本社第2工場　東京都品川区豊町3−8−7　電話　東京(03) 783−6405(代)
御用命は全国著名機械工具店・本社営業課へ